

東日本大震災で親を失った子らと里親が家庭生活

「子どもの村 東北」実現に力添えを



東日本大震災で親を失った子らと里親が家庭生活を営む「子どもの村 東北」が、仙台市太白区に建設中だ。NPO法人「子どもの村東北」(設立)が、今年12月に開村する。仙台市太白区に建設中だ。NPO法人「子どもの村東北」(設立)が、今年12月に開村する。仙台市太白区に建設中だ。NPO法人「子どもの村東北」(設立)が、今年12月に開村する。

建設資金など寄付のお願い

「子どもの村東北」は、東日本大震災で親を失った子らと里親が家庭生活を営むための施設だ。建設資金など寄付のお願い。建設資金など寄付のお願い。建設資金など寄付のお願い。

- ・ゆうちょ銀行二二九店
【口座番号】02230-3-127151
【口座名義】特定非営利活動法人 子どもの村東北
- ・七十七銀行新伝馬町支店(支店コード203)
【口座番号】普通5235208
【口座名義】特定非営利活動法人 子どもの村東北
理事長 飯沼一宇(いいぬまかずい)
- ・三井住友銀行仙台支店(支店コード311)
【口座番号】普通1838931
【口座名義】特定非営利活動法人 子どもの村東北

特定非営利活動法人「子どもの村東北」
住所 〒980-0021 仙台市青葉区中央 2の7の30 角川ビル402号
TEL 022(748)6936
FAX 022(748)6931
メール tohoku@soscvj.org
HP http://soscvjtohoku.org/



SOS子どもの村 1949年、第二次世界大戦後のオーストリアで始まった組織。戦争や貧困で親を失った子どもたちのために「すべての子どもに愛ある家庭を」をスローガンに掲げ、世界133の国・地域で活動している。子どもの権利尊重を核としたさまざまな活動を展開する子どもたちのために「すべての子どもに愛ある家庭を」をスローガンに掲げ、世界133の国・地域で活動している。

日本で2番目 仙台・茂庭台に12月開村

3月に着工、6月は土台部分を工事しています。7月下旬に上棟式を予定、9月に村の中核施設となるセンターハウスと家族の家3棟(将来は5棟)が完成し、12月に開村の予定です。専門的な研修を受けた育親(里親)が、子ども3〜5人と新しい家族として生活します。センターハウスには村民や育親アシスタントが常駐し、養育家庭を支えます。子どものケアのための専門家チーム(医師・心理士・保健師など)によるサポート体制を作ります。行政機関と密接な連携をとりまます。子どもたちは、地域の子として、地域に支えられ、多くの市民、企業の支援で育ちます。

「子どもの村東北」理事長 飯沼一宇氏に聞く

「子どもの村東北」理事長 飯沼一宇氏に聞く。理事長 飯沼一宇氏に聞く。理事長 飯沼一宇氏に聞く。

家庭的な養育を目指す



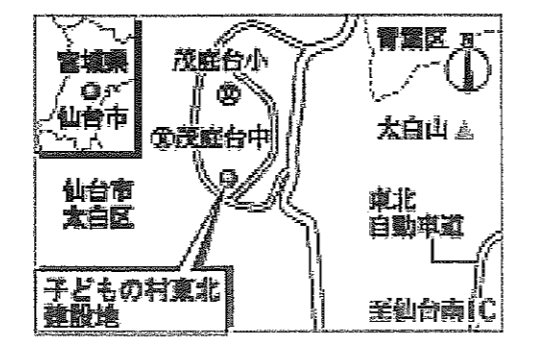
いいぬま・かずい 東北大名舎教授、石巻赤十字病院名誉院長。1967年東北大学医学部卒業。米ハーバード医科大学卒業。東北大学医学部小児科教授、石巻赤十字病院院長などを歴任。元日本小児神経学会理事長。仙台市出身。

「子どもの村東北」は、東日本大震災で親を失った子らと里親が家庭生活を営むための施設だ。家庭的な養育を目指す。家庭的な養育を目指す。家庭的な養育を目指す。

社会全体で見守ろう
アイリスオーヤマ 代表取締役社長 大山 健太郎氏
早いものですが、東日本大震災から10年が経ちました。震災で親を失った子らと里親が家庭生活を営むための施設「子どもの村東北」が、今年12月に開村する。社会全体で見守ろう。

専門家ら温かな支援
養育士 松良 千廣氏
社会的な支援を必要とする子どもたちの健やかな成長は、社会全体の責任です。専門家ら温かな支援を必要とする子どもたちの健やかな成長は、社会全体の責任です。

建設資金など寄付のお願い
「子どもの村東北」は、東日本大震災で親を失った子らと里親が家庭生活を営むための施設だ。建設資金など寄付のお願い。建設資金など寄付のお願い。



「子どもの村東北」は、東日本大震災で親を失った子らと里親が家庭生活を営むための施設だ。建設資金など寄付のお願い。建設資金など寄付のお願い。